

# UMI、英社に2億円 PFAS吸着材 国内展開支援

ユニバーサルマテリアルズインキュベーター(UMI、東京都中央区、木場祥介社長)は、英国の大学発ベンチャーに2億円を投資し、有機フッ素化合物「PFAS」吸着材の国内展開を支援する。PFASは欧米で規制が強化され、環境排出基準の厳格化や使用停止が進む。同社の技術は活性炭並みコスト競争力を見込む。排水処理装置メーカーやPFASメーカーなどに技

術を提案する。投資先は英インペリアル・カレッジ・ロンドン発ベンチャーのピュラフィニティ。「シリズA」の投資ラウンドで、ピュラフィニティは事業の本格展開に向けて調達資金を活用する。UMIは日本企業に提携や技術ライセンスを提案する。ピュラフィニティは顆粒状の吸着材を開発した。現行の水処理ファトリッジに詰め替えれば利用できる。水処理施設などの設備投資を抑えられる。除去の難しかった分子鎖の短いPFASを吸着できる。吸着材の疎水基と親水基の組成を調整して処理対象のPFASに適用する。実験では活性炭の172倍、イオン交換樹脂の11倍の速度で除去できた。吸着後の再生プロセスを開発中で、実現すると運用コストが活性炭と同等まで下がる。米国では認証を経て2023年内にも発売する。PFASは自然界では分解されにくく、長く残る物質。腎臓がんや肝機能障害など、人体への影響が懸念される種類もあり、規制強化が進んでいる。